

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 藤木 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均正答率を下回っているが、「話すこと・聞くこと」の領域に関しては全国平均正答率を上回っている。
	よくできた問題	・ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題。
	努力が必要な問題	・ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題。 ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っているが、「図形」領域は、全国平均とほぼ同じである。
	よくできた問題	・ 正三角形の意味や性質に関する問題。 ・ 加法と減法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする問題。
	努力が必要な問題	・ 示された日常生活の場面を解釈し、式や言葉を用いて記述する問題。 ・ 百分率で表された割合に関する問題。 ・ 示された複数のグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析	
<p>・ 「人が困っているときは、進んで助けている」や「地域の行事に参加している」、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。これらは、学校が地域や家庭と連携し、「みんなで子どもたちを育てよう、守っていこう」という意識の高まりが好影響を与えていると考えられる。</p> <p>・ 「学校に行くのは楽しい」や「友達関係に満足している」と答えた児童の割合は、全国平均とほぼ同じである。今後より一層、子どもたちが笑顔で明るく元気よく学校生活を送ることができるように、学校教育力を高めていきたい。</p> <p>・ 「読書が好き」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。朝の読書タイムや地域ボランティアによる読み聞かせ等の取組の成果であると考えられる。</p> <p>・ 「自分には良いところがある」という自己肯定感に関わる項目への肯定的回答率が全国平均よりも下回っていることを踏まえ、子どもたちが活躍できる場や称賛される機会を一層増やしていく。</p> <p>・ 「国語や算数の勉強は好きですか」という設問に対する肯定的回答率が全国平均同様であるが、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と答えた児童の割合は、全国平均を下回っている。この改善のために、学習の終末を行う「振り返り」の時間の確保や質の向上を図っていきたい。</p>	

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・ 授業改善を一層進めるとともに、朝自習や放課後の時間を使って、学習の基盤となる、基礎部分の定着を図る。  
 ・ 算数科に重点を置き、3・5年生を中心に少人数指導体制をとり、きめ細やかな指導を行う。  
 ・ 各教科で児童のつまづきを分析的に捉え、基礎的・基本的な知識・技能の定着はもちろん、思考力・判断力・表現力等の育成に努める。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 携帯・スマホ等の取扱いに関し、フィルターの設定や使用時間など、中学校と連携して子どもたちに啓発する。また、「携帯・スマホ電源10時OFF」など、管理の仕方や約束の内容を家庭・地域に発信し、協力体制を強化する。  
 ・ 家庭学習の定着を図るため、学習方法や自学ノートの参考例、計画の立て方等を児童はもちろん家庭に積極的に発信する。また、「家庭学習チャレンジ週間」を継続・活用し、家庭学習の習慣化を今後も図っていく。  
 ・ 国語や朝自習の時間等を活用し、読書習慣の定着を一層図る。また、学校図書館司書と連携し、読書の楽しさが味わえる機会を増やす。